

(別添3)

【山形県鮭川村】

校務DX計画

1 はじめに

令和5年11月及び令和6年9月に実施した「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリスト」の調査結果において、鮭川村の教育行政における校務DX化の課題が、下記の通り判明した。

これらの諸課題については、鮭川村ICT活用推進委員会で検討を重ね、校務DX化の更なる推進と教育DXに係る当面のKPI達成に向けて尽力していく。

2 鮭川村教育行政の校務DX化の諸課題と対策

下記の諸課題について、令和7年度よりICT支援員を活用ながら、校務DX化の更なる促進を実現していく。

(1)FAXでのやり取り・押印の原則廃止 (KPI目標：R7／実施年度：R7)

必要最低限の項目を令和7年度中に再精査を行い、原則廃止とする。

(2)校務支援システムへの不要な手入力作業の一掃 (KPI目標：R7／実施年度：R7～)

ICT支援員を活用し、必要最低限の入力作業で適切に実施できるよう令和7年度中に検討し、令和8年度に実施していく。

(3)クラウドサービスを用いた欠席・遅刻・早退連絡と学校での集計

ICT支援員を活用し、既に導入済みのアプリケーションや令和7年度から導入予定のGoogleWorkspaceによる実施を、令和7年度中に検討していく。

(4)PC・モバイル端末を用いた業務時間外の保護者からの問い合わせ・連絡体制の構築

業務時間外の保護者対応については、小中学校及び教育委員会で協議を重ね、どのような体制が適切であるかの検討を行う。

そのうえで、業務時間外における適切な体制の実現のために、どのような手段が有効・必要であるか検討を重ねていく。

想定される手段としては、PC・モバイル端末を用いた連絡用アプリとともに、学校の留守番電話機能など、デジタル・アナログの両面から検証を重ねていく。

(5)クラウドサービスを用いた保護者への配布物の一斉配信・資料提出・調査・アンケートの実施及び日程調整

現在、鮭川小中学校においては、各学校のHPにおいて、学校だよりを掲載するとともに、連絡用アプリで配信している。併せて、学校だよりを印刷し、村広報とともに村内全戸に配布している。

将来的なデジタル化の促進に伴い、今後は、学校だよりの全戸配布の廃止も検討していく。

また、ICT支援員を活用し、既に導入済みのアプリケーションや令和7年度から導入予定のGoogleWorkspaceによる配信の実施を、令和7年度中に検討する。

(7)学校説明会や保護者面談へのオンライン形式の導入

学校説明会や保護者面談に対するオンライン形式の導入については、その効果や意義を十分に検証しながら、慎重に検討を行う。

特に、保護者からの要望や苦情については、対面式で実施することで、保護者及び学校間の信頼関係の構築を育むことにも繋がるため、議論を重ねることが重要と考える。

学校説明会など、画一的な説明を実施する場合は、保護者の考え方も聞き取りながら、学校・教育委員会で検討を重ねていく。

(8)学校徴収金の口座振替・デジタル化

現在、鮭川村では100%の達成率であり、今後も継続していく。

(9)次世代校務DXの導入・校務支援システムのクラウド化

現在、鮭川村では校務支援システムはオンプレミス（校内にサーバー設置）で運用している。

今後は、「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」において方向性が示された「次世代校務DX」環境（ロケーションフリーでの校務実施、ダッシュボード上での各種データの可視化を通じたきめ細やかな学習指導等が可能となる校務DXの在り方）をめざし、必要な環境整備について国・県と連携しながら、検討を重ねていく。

上記の内容について、各学校間の共通理解を図るとともに、鮭川小中学校の校務DX化が更に推進するよう尽力していく。